



ESC アクティブ/アクティブ高可用性のアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- [ESC アクティブ/アクティブ高可用性のアップグレード \(1 ページ\)](#)

ESC アクティブ/アクティブ高可用性のアップグレード

Cisco Elastic Service Controller のアクティブ/アクティブ HA は、ローカルアクティブ/アクティブからアクティブ/アクティブへの簡易アップグレードをサポートしています。

ローカルアクティブ/アクティブからアクティブ/アクティブへの簡易アップグレード

手順

- ステップ 1** データベースをバックアップします。詳細については、[データベースのバックアップ \(1 ページ\)](#) のセクションを参照してください。
 - ステップ 2** 古い VM を削除します。詳細については、「[古い VM の削除 \(2 ページ\)](#) [古い VM の削除](#)」の項を参照してください。
 - ステップ 3** 新しい ESC アクティブ/アクティブ VM をインストールします。詳細については、[新しい ESC アクティブ/アクティブ VM のインストール \(2 ページ\)](#) のセクションを参照してください。
 - ステップ 4** ESC データベースを復元します。詳細については、[ESC データベースの復元 \(3 ページ\)](#) のセクションを参照してください。
-

データベースのバックアップ

アップグレードの前に、次の手順に従ってデータベースのバックアップを取得します。

手順

ステップ 1 次のコマンドを実行して、ESC リーダ VM をメンテナンスモードにします。

```
escadm op_mode set --mode=maintenance
```

ステップ 2 すべての ESC VM がトランザクション処理を停止するまで待機します。確認するには、次のコマンドを実行します。

```
escadm ip_trans
```

ステップ 3 次のコマンドを実行して、ESC リーダーにデータベースのバックアップを作成します。

```
escadm backup --file dbback.tar, scp <dbback.tar>
```

ステップ 4 次のコマンドを実行して、すべての ESC VM からログを収集します。

```
escadm log collect  
scp
```

古い VM の削除

手順

ステップ 1 次のコマンドを実行して、すべての ESC フォロワー VM と ESC リーダー VM をシャットダウンします。

```
nova stop
```

ステップ 2 次のコマンドを実行して、古い ESC アクティブ/アクティブ VM を OpenStack から削除します。

```
openstack stack delete {stack name}
```

新しい ESC アクティブ/アクティブ VM のインストール

データベースのバックアップおよび古い ESC アクティブ/アクティブ VM のシャットダウンが完了したら、新規/アップグレードされた（新しい ESC パッケージに基づく）アクティブ/アクティブ ESC VM をインストールする必要があります。

手順

ステップ 1 OpenStack では、次のコマンドを実行して新しいイメージを登録します。

```
glance image-create
```

ステップ2 次のコマンドを実行して、新しい ESC アクティブ/アクティブ VM をインストールします。

```
openstack stack create {stack name} --template {location of the template file}
```

ステップ3 次のコマンドを実行して、すべての ESC VM の正常性を確認し、フォロワー VM で `escadm` サービスを停止します。

```
sudo escadm stop for all followers VMs
```

ステップ4 すべてのフォロワー VM で `escadm` サービスが停止したら、次のコマンドを実行して、リーダー VM の `escadm` サービスを停止します。

```
sudo escadm stop
```

ESC データベースの復元

次の手順を使用して、新しい ESC インスタンスで ESC データベースを復元します。

手順

ステップ1 次のコマンドを実行して、バックアップファイルを新しいリーダーにコピーします。

```
scp
```

ステップ2 次のコマンドを実行して、ESC リーダーのデータベースを復元します。

```
sudo escadm restore --file <dbback.tar>
```

復元後、復元プロセスはリーダー VM で `escadm` サービスを開始します。ただし、すべてのフォロワー VM で `escadm` サービスは停止されたままです。

ステップ3 ESC リーダー VM が中断されずにすべてのサービスを実行していることを確認します。

ステップ4 次のコマンドを実行して、ESC リーダー VM を動作モードにします。

```
sudo escadm op_mode set --mode=operation
```

ステップ5 次のコマンドを実行して、フォロワー VM で ESC サービスを開始します。

```
sudo escadm start
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。